

令和元年度 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会  
第4回会議 議事要旨

日時 令和2年(2020年)1月20日(月)18時～19時50分  
場所 第二庁舎3階大会議室  
出席者 高橋委員、石川委員、吉村委員、池田委員、古川委員、重長委員  
計6名  
事務局 榎本都市経営部長、津田都市経営部次長  
都市経営部経営計画課：寺田、坂本、上田  
案件 1. 前回の振り返り  
2. 答申案について  
3. その他  
資料 【資料1】第3回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 議事要旨  
【資料2】第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について(答申案)  
【資料3】第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について(抜粋)  
会議録 下記のとおり

●開会

●成立要件の確認

事務局

本委員会規則第6条第2項の規定により、会議の成立には委員の過半数の出席が必要です。本日は委員総数8名中、6名の委員の出席をいただいておりますので、成立要件を満たしております。

●委員紹介

(交代された委員の紹介)

●資料について

事務局

(資料について説明)

会長

それでは、案件1「前回の振り返り」を事務局から説明してください。

●案件 1. 前回の振り返り

事務局

前回の委員会でご審議いただいた内容についての振り返りをご説明いたします。

(「【資料 1】第 3 回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 議事要旨」をもとに説明)

会長

ただいまのご説明についてご質問、ご意見はありますか。

委員

人口を増やすということは、子どもを作りたいという気持ちを醸成させることなのではないでしょうか。たとえ豊中市が増えたとしても、他の地域が減っているのでは効果がないように思います。

会長

モデルとして、例えば豊中市が自然人口増に関してよく頑張っていると周りの自治体に興味をもってもらえることが、トップランナーとなる可能性があることとなります。そういうことが、この委員会の議論としてうまれてくるならいいことだと思います。先ほど事務局からも説明がありましたが、今まで社会人口増に目を向けていたけれど、自然人口増に目を向けてみてはどうかというご指摘が、前回の委員会でもありましたので、それを答申案の中に入れていければと思います。

委員

社会人口増がよくわかりません。

会長

豊中市の転入の数と転出の数を比べたものです。簡単に言うと、他市から人口を取ってきていることです。

委員

つまり、他市の人口は減るわけですね。

会長

そうです。人口のゼロサムゲームをしている状況ですので、それが日本の人口増につながるかどうかというと、そうでないと思います。

委員

現実問題として日本全体の人口は減っています。全体が減っていることに対して、何の手も打たずにゼロサムゲームをしていることは虚しいことです。

会長

ですので、自然人口増にもう少し目を向けてみてはどうかと委員の皆さまからご発言いただいて、これから先の計画で重きを置いていければいいということを前回の委員会で議論しました。

委員

私は、この件に関しては政府の無策だと思っています。なぜなら人口減少が進めば、ある程度のところで国民自身が危機感をもって、自然人口増につながるという楽観論に支配されていたように感じます。しかし、その楽観論が間違えていると今になって気づき始めて、本気で何かしないといけないと思っているように感じます。

会長

価値観が多様化しているので、子どもができればいいというより、今生きている私たち自身を幸せに、そして新しく命を授かる人たちも同じように幸せになっていくためには、どういう政策が必要なのかを考えていかないといけないと思います。たとえ子どもを作っても保育園がない、働く場所もないということにならないようにするために、何をしたらいいのかを考える必要があります。多様な価値観に対して、いかにサポートできるかが今の時代の自然人口増の対策につながる可能性があるということが、我々の議論の筋道になっているように思います。まだ他にこういうことができるというアイデアがこの委員会から出てくると、また違う動きにもなってくると思います

委員

私の周りを見ていますと、結婚をして、子どもが産まれる方がたくさんいます。それでも全体を見ると子どもの数が減っている原因の根本には何があるのでしょうか。

会長

合計特殊出生率が2.07にならないと人口を維持できないとされています。

委員

今の合計特殊出生率どのくらいですか。

事務局

2018年の国の合計特殊出生率が、1.42です。

事務局

国は、この数値を1.80まで上げようと、地方創生では言っています。そして将来の人口1億人を維持しようとしています。

会長

外国人労働者の受け入れも含めて、今までの日本人と呼ばれていた人たち以外にも目を向けるということも含めての政策になりつつあると思います。

委員

自然人口増に成果を出している自治体はあるのでしょうか。

委員

イメージとしては福井県です。女性が働きやすく、子どもも産みやすい環境というイメージがあります。

委員

市の人口も増えているのでしょうか。

委員

社会人口減もあると思いますのでわかりません。結局18歳になったら関東や関西に来ている可能性もありますので。

委員

福井県は教育に力を入れているイメージもあります。

委員

本当に子どもを産んでほしいのであれば、結婚してもらったところからスタートするよりも、一人しか産んでいない人に二人目を産んでもらう方が早いという分析もあります。そう考えると、やはり教育・学校です。しかし、子ども一人を大学まで通わせることを考えると莫大なお金がかかります。金銭面を考えると二人目、三人目を考えることが難しいのかもしれない。

委員

先ほど今回の総合戦略の期間は3年間と説明がありました。3年というのは短い期間だと思います。そこで結果を出すことは非常に難しいと思います。

事務局

今回の総合戦略は、総合計画の前期基本計画と計画期間をあわせています。

会長

次に、案件2「答申案について」を事務局から説明してください。

●案件2. 答申案について

事務局

前回の審議内容をふまえた答申案についてご説明します。

(「【資料2】第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について(答申案)」をもとに説明)

続きまして、前回の諮問時にはお示しできていなかった、地域ごとの人口分析についてご説明します。

(「【資料3】第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について(抜粋)」をもとに説明)

会長

地域ごとの人口分析について、なぜこういう結果になったのかまで分析されていますか。

事務局

今の段階では、地域の現状を把握する部分までしかできていません。しかし、現状分析をすることで、今までそれぞれの地域でもっていたイメージと違う部分も見えてきました。

会長

ただいまの説明についてご質問・ご意見はございませんか。

委員

豊中市の合計特殊出生率が1.52で、全国が1.42ということですが、全国に比べて0.1高いという理由は何ですか。

#### 事務局

様々な要因が関係した結果だと考えております。

#### 委員

今回の総合戦略は計画期間が3年で、3年でできることは限られていると思います。しかし、合計特殊出生率を1.52から1.60まで上げるというのであれば、やり方次第でできるのではないかと私は思います。具体的に人口を増やす施策に邁進すべきと考えます。

#### 事務局

今回の総合戦略は、総合計画に基づいて、人口増に対する部分にフォーカスしています。前回諮問時に添付しておりました素案のP12に「基本目標(4)安心して産み育てられるまちとよなか」の中で、子どもに関する具体的な施策を示しております。

#### 委員

資料3についてですが、これは答申案に組み込まれるのでしょうか。それとも内部資料として扱われるのでしょうか。

#### 事務局

資料3につきましては、第2期豊中市総合戦略(素案)についての諮問時にお示しできていなかった人口の部分になります。答申書にはつけませんが、第2期豊中市総合戦略の策定時には中に組み込んで公表します。

#### 委員

先ほどご説明いただいている中で、円グラフを多用していましたが、見づらいと思いました。例えばP6では「市の人口割合」と「出生の割合」「死亡の割合」を見比べるようにしていますが、「市の人口割合」を見て「出生の割合」を見ても少ししか違いがないのでわかりにくいです。私たちが知りたい情報というのは、地域ごとで言いますと、どの地域で出生が多いのか、どの地域で死亡が多いのかだと思います。そう考えると、例えば市全体の基準を1としたときに、それぞれの地域が大きいのか小さいのかを見るのが重要だと思います。この委員会では最終的に政策提言をすることになるので、先ほどの答申案にもありましたように地域差を見ていく必要があります。画一的に市の政策を掲げるのではなく、南部にはこういうところに課題があるとか、東部ではどうなのかといった市全体で見たときにどういう差があるのかを見るという意味では、市全体の基準の中で各地域が上・下かがわかるようなデータの分析の方がいいと思います。その意味では、円グラフを多用するよりは、もう少し地域の差がわかりやすいように可視化していただきたいと思います。それで言いますと、P10の「2014年北部社会移動数」と「2018年北部社会移動数」を見比べたときに、左

右で網掛けの色合いが異なっています。本来であれば、左右の転出・転入・転居の色合いは揃えておかないといけません。そうすることで一目見たときにわかりやすいグラフになります。先ほど事務局からもありましたように、要因分析はここからだと思います。今のデータだとどこの地域に課題があるとかが見づらいので修正していただければと思います。最終的に要因分析をされる際には、目的意識をもってデータを見ないといけません。どういうところに課題がありそうなのかを仮定しながら数字を見ていくことに注意してほしいと思います。そうすることで何が本題なのかというところを明らかにできるのではないかと感じます。

#### 会長

たしかにこの先要因分析をしていくことで、そこから次の政策の議論につながると思います。それができるようになると、先ほどの委員にご指摘いただいている内容についても議論が進んでいくように思います。

#### 委員

合計特殊出生率が1.52ということは、豊中市は他市に比べて、ご結婚されて子どもを産まれている方が多いからだと思います。以前仕事の関係で、この校区の学校に行かせたいから、その地域に住んでいるという話を聞きました。そういう方が豊中市も多いのだと思います。一方で社会の構造的に人口は減っています。このまち・ひと・しごと創生総合戦略についても、人口は減っていくのは仕方がないので、社会構造は維持していこうというふうに考えているように感じています。しかし、先ほど会長が仰ったように豊中市が人を集めることができ、さらに子育てがしやすい、子どもが産みやすいようなモデルとなる市のなれるよう考えることも大事だと思います。現状では先の見えない議論かもしれませんが、細かいことを積み上げて、こつこつやっていただきたいと思います。

#### 委員

私自身子育てをしている中で、漠然とお金がかかると認識しています。労働者の代表として奨学金を給付型に変えるよう求めています、国としては難色を示しています。しかし、こういうことを続けていかないと働きやすい職場にはなっていないと思います。市でも同様に人口増につなげるためには、こつこつと少しずつでも変えていかないといけないように思いました。働く者の立場としては、豊中市で気持ちよく働ける環境が大事だと思います。

豊中市のブランドは何でしょうか。イメージキャラクターとかいるのでしょうか。

#### 事務局

マチカネくんがいます。

#### 委員

箕面市はイメージキャラクターとして「ゆずるくん」がいて、箕面市のブランド力の向上に一役買っています。イメージキャラクターでなくてもいいですが、いろんな手法を用いて豊中のブランド力を上げていただきたいと思います。

#### 委員

住む場所を選ぶということでは、皆さん口コミの情報をたくさんもっています。小学校や中学校がどうなっているかなど、よく調べられています。最近大阪府下でも医療費助成が高校生までになりました。こういう政策は市民にとってわかりやすいと思います。例えば、これが兵庫県になくて大阪府にはあるとなると、大阪府への転入が増加します。それほど市民は情報に敏感です。ですので、市の政策をアピールするときには、できるだけ具体的に示すことが大事だと思います。また南部地域の小中学校の再編に関しても、今後影響が出てきて、イメージが変わって、魅力アップにつながってほしいと思います。先日大阪市では、学校の統廃合について、地域の事情ではなく生徒数が何人をきったら統廃合を検討しますと示したこともある意味ではわかりやすいです。先ほどの委員が仰るような豊中市だけでやると、国・府を含めて全体でやることのバランスを考えながら取り組んでほしいと思います。

質問ですが、折れ線グラフを作成する際に自分を表す線は赤で示すイメージがあるのですが、そういう決まりはないのでしょうか。

#### 委員

カラーで示すときと白黒で示す場合がありますので、赤線という決まりはないと思います。そういう意味では、白黒でもわかりやすくする必要があります。

#### 委員

例えば、折れ線グラフの豊中市の部分を太くするとかですか。

#### 委員

それでもいいと思います。例えば、資料3のP3に出生数と死亡数の折れ線グラフがありますが、どちらも○で見分けがつかず、どういうふうにクロスしているかもわかりません。その意味では、私が作成するときには、白黒でも判別できる色にするようにしています。逆に言えば色を決められるので、自分たちを赤色にして、他を別の色もしくは白黒にしておくのでもいいと思います。P1の近隣市の人口の推移でも、ほとんど変化がないように思います。例えば、2010年のそれぞれの市の人口を1とした時に、2015年及び2019年がいくらになったかで示すとグラフの変化が見やすくなります。結局はどこを見せたいかによるので、そこを考えていくとグラフの作り方も変わってくると思います。



会長

今のご指摘を受けて、グラフについては整理していただければと思います。

委員

私も転居の分析をしているのですが、現在は流動性が高くなってきています。昔みたいに持ち家で終わりではなく、自分たちのライフスタイルにあわせて転居をするパターンがすごく増えてきています。その意味では、先ほど校区のお話がありましたが、今の転居の理由で大きいのは教育です。子どものいる家庭では教育の影響が大きく、思っている以上に口コミの影響も大きいです。不動産雑誌などで、〇〇校区と出ていれば、消費者には響くキーワードになります。その意味では、教育を充実させることも重要ですが、私は豊中市で子どもを出産した家庭を豊中市に定着させることの方が重要だと思います。子どもがいる家庭の将来の不安を取り除くことが、出生率に大きく影響してくると思います。豊中市で将来設計ができるようにすれば、定着につながっていくと思います。校区も含めて、なぜこの地域にたくさん人が入ってきているのかということ进行分析すると、今後教育が大事であるからもっと充実させようというロジックができて、政策の提言につながると思います。データ分析には仮説が必要ですので、仮説を立てながら分析をすると、仮説のとおりだったと気づき、そこを政策に反映させていけるので、そういった視点ももって分析を進めてください。

委員

資料3のP5の合計特殊出生率ですが、2009年から2018年にかけて全国や大阪府はほぼ横ばいの状況に対して豊中市は0.26伸びています。これの原因はあるのでしょうか。

委員

2014年と2015年ではデータの取り方が変わっています。2009年から2014年と2015年から2018年では単純に比較はできないと思います。2015年から2018年ではほぼ横ばいの状態です。

委員

しかし2015年から2018年を見ても、国も大阪府も数値を下けているのに、豊中市は増えています。

委員

そこは増加している要因があると思います。

#### 委員

それ以前の 2009 年から 2013 年はすごい伸び率になっています。ここは算定方法が変わっていない部分です。それでこの伸び率はとてつもないです。これは分析する必要があると思います。この傾向を維持できるのであれば、合計特殊出生率を上げることも可能です。

#### 会長

今後の要因分析につなげていただきたいと思います。それがないと次の政策の議論にいきこないというご指摘だと思います。

今回自然増に関する議論を重ねようということはいいいことだと思いますが、難しいと感じている部分もあります。それは女性を中心とした多様な生き方に対してと、子どもを増やしていこうということに対してのなかなか重なり合わない違和感に対して皆さんにどのように意見を求めるのかは難しいと感じています。豊中市がどういう生き方の人に対して非常にやさしいまちであるというなら、この議論はやりやすいと思います。多様な生き方に対して寛容なまちであることも必要ではないかと思います。一人で産み育てるということに対しても、国の考え方以上に非常に積極的にサポートの手が入るといようなことをやっていくのであれば、合計特殊出生率の観点ではわかりやすいですし、議論も進めやすいです。先ほど事務局からのご指摘がありました P12 ではそういう政策がありません。いろんな方に住んでいただいて、いろんな生き方を支援できて、そういう方々をサポートしていくことが全体の引き上げにつながる可能性はあります。もう少しこの部分でも議論できればいいのかもしれませんが。必ず結婚しないとイケないとか、一人で産み育てるということに対しての厳しい視線がないとかということも含めて変わっていくことも、この委員会から発信できればいいのかもしれませんが。

#### 委員

その議論というのは、社会全般として動きがあるものでしょうか。

#### 会長

先ほどの欧米の例はあると思います。欧米では一人で産み育てるということに寄り添っていこうという政策に変わってきています。そうでないと、ヨーロッパの例を引き合いに出して議論を続けるということは、止めた方がいいように思います。

#### 委員

現在、母一人、子一人の世帯の年収は非常に低いです。あれは何とかできないのでしょうか。

## 会長

補助金や助成金でいくのか、それとも働く場なのか、もしくは働く場に対しての教育システムなのか、そういうこともいろいろあると思います。様々な女性の生き方に焦点を当てた政策を作っていくことになると、かなりバラエティーに富んだものがここで議論されることとなります。

## 委員

北欧が進歩的だとよく耳にします。何か理由があるのでしょうか。

## 会長

私自身が子育てをしていた時に、言われたことがあります。ある会社に一生勤めることになれば、生涯賃金はおおよそ見えてきます。そうなると、家を取るのか、子どもを取るのか、子どもの教育も取るのか、何を取るのか優先順位をつけて捨てるものを捨てないと、すべてにおいて万遍にやっていくことはこれから先難しいと言われました。様々なことにサポートを入れていく時代で、今はそこに集中することが正しいとするならば、それを豊中市として何らかの場面でリードできるような分野があるのか、国や府の方からの補助金・助成金があるもの、ないものはどこでそこについては集中的にやっていけることができるのかどうか、そういうような整理をしていくことで豊中市は子育てにやさしいとか産み育てるまちとして寄り添っていけるとかというようなことがいえると思います。

## 委員

今の議論とも関係しますが、やはりSDGsの視点は大きく出てくると思います。その意味では、結婚をすべきだとか、子どもを産むべきだとかいう時代ではなくなっていて、結婚をしてもいいし、子どもを産んでもいいというような時代に変わってきているように思います。多様な生き方が認められてきている状況の中で、その多様な生き方を支えるということが重要になっているのではないかと思います。画一的にこうしなければならないというところから、自由な選択肢の中で自分の人生を歩めるという環境づくりをすることが、これからの行政に求められているのではないかと感じています。その意味では、例えば豊中市で産むと決めた場合に、その産むという選択をした人に対して寄り添う形でサポートできるというようなところをアピールすることも求められていると思います。強制的にではなく、「自発的に出産や子育てをしたくなる」といったインセンティブを与えるというようなゆるやかな環境づくりをすることが、最終的には人口増につながってくるのではないかと思います。

事務局

先ほど多様な生き方やひとり親に対する議論がありましたが、諮問時の素案の P11 に「働く場をつくるまち とよなか」ではひとり親の支援や仕事と子育ての両立についての取り組みを書いています。

会長

ひとり親は 1 つの例で、多様な生き方に対して寄り添うということを政策としての打ち出し方として議論が進めばどうかということだと思います。

事務局

先ほど合計特殊出生率についてご指摘をいただきましたが、豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの合計特殊出生率の推移の部分で、豊中市は平成 17 年までは合計特殊出生率の数値が下がっていましたが、団塊ジュニア世代（40 歳前後）の出産が増加した影響と、平成 19 年以降市の人口が増加したことを受けて、合計特殊出生率も増加して、平成 25 年には国の平均を上回ったと分析しています。

会長

その世代の方々が 33～35 歳ぐらいの時に出産されたということですね。今女性の出産される年齢は 30 代中ごろが多いのでしょうか。

事務局

初めて出産される方の年齢は 30 代にかかってきています。

委員

総合戦略を作るために議論をしているのか、本当に人口増に取り組むために議論をしているのかを間違えないでほしいと思います。分析をもとに、本当の意味で痒い所に手が届く政策を考えていただきたいです。

会長

本日いただいた意見を踏まえ、最後まとめることにつきましては、会長に一任していただければと思います。皆さま、よろしいでしょうか。

（異議なし）

ありがとうございます。答申書が完成しましたら、皆さまにもお送りいたします。最後に、案件 4「その他」について事務局から説明してください。

●案件 4. その他

事務局

連絡事項が1点ございます。

(連絡事項の伝達)

当委員会は本日が最後になりますので、都市経営部長からご挨拶させていただきます。

都市経営部長

(挨拶)

会長

それでは、これで豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会を閉会します。

ありがとうございました。

●閉会